

- 1 対象作物 カンキツ
- 2 対象病害虫 ミカンハダニ
- 3 供試虫および検定方法

(1) 供試虫

平成27年1月13日に出水郡長島町の施設不知火，1月21日に農業開発総合センター果樹部第2ほ場露地栽培の太田ポンカン（18年生）から採集したミカンハダニを使用した。

(2) 検定方法

リーフディスク法

殺成虫試験は，プラスチックカップを用いたリーフディスク法により行った。無防除のかごしま早生の葉を切り取り，所定濃度の薬液に10秒間浸漬後，風乾し，1葉片あたりミカンハダニ雌成虫10頭を接種した。これを3反復行った。その後，25℃下に静置し，処理3，5および7日後にミカンハダニ生虫数，死虫数及び水死虫数（葉片外への逃亡数を含む）を調査した。

4 検定結果の留意点

検定結果は各地点の1ほ場から採集したものに由来するため，薬剤感受性は地域やほ場によって異なることが予想される。

表1 薬剤感受性検定に使用した各種薬剤

供試薬剤	系統名	希釈倍数
コロマイト水和剤	殺ダニ	2000倍
カネマイトフロアブル	殺ダニ	1000倍
マイトコーネフロアブル	殺ダニ	1000倍
バロックフロアブル	殺ダニ	2000倍
ダニエモンフロアブル	殺ダニ	4000倍
ダニサラバフロアブル	殺ダニ	1000倍
スターマイトフロアブル	殺ダニ	2000倍
バリュースターフロアブル	混合剤	2000倍
カスケード乳剤	IGR	1000倍

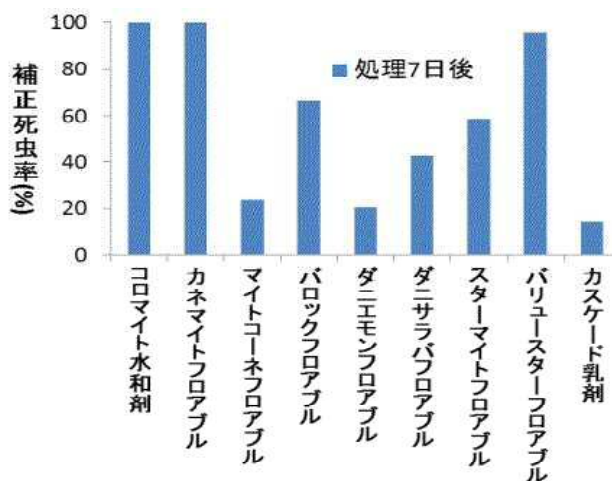


図1 長島町（施設栽培）ほ場で採取したミカンハダニ雌成虫の処理7日後の各種薬剤に対する感受性

注) コロマイト水和剤は処理3日後に

カネマイトフロアブルは処理5日後に補正死虫率100%となった。

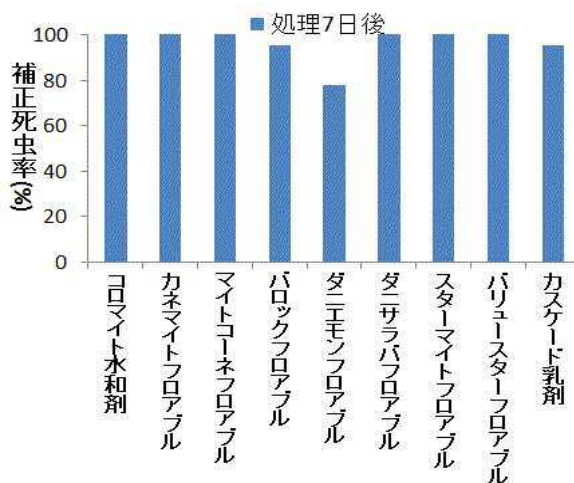


図2 果樹部ほ場で採取したミカンハダニ雌成虫の処理7日後の各種薬剤に対する感受性

注) コロマイト水和剤，カネマイトフロアブル，ダニサラバフロアブル，スターマイトフロアブル，バリュースターフロアブルは処理3日後に補正死虫率100%となった。